

三つの博物館と 渋沢庭園

北区をもっともっと知ってほしい！北区が育んできた文化的魅力を
この飛鳥山公園の文化ゾーンで紹介します。

北区飛鳥山博物館

北区の魅力・不思議を発見！北区の自然や歴史を「大地・水・人」
のテーマで構成した総合博物館です。

渋沢史料館

わが国の近代産業・経済界の指導者「渋沢栄一」に関する歴史資料
を展示した博物館です。

紙の博物館

王子は、日本で初めて本格的な洋紙工場が建設された由緒ある地です。
「紙」専門の産業・歴史博物館として世界的にも知られています。

渋沢庭園

この庭園の中には、大正期の優れた建築物として、国の重要文化財
にも指定されている「晩香廬」と「青淵文庫」があります。





関山
カンザン



染井吉野
ソメイヨシノ



しだれ桜
シダレザクラ



山桜
ヤマザクラ

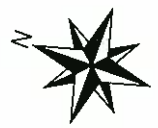
こどもらんど

(児童エリア)



きみたちの笑い声が
飛鳥山の緑の
エネルギー源
とんがり帽子の子供のお
城は、誰にもじゃまされな
い秘密の基地だよ。おおよ
きな象の滑り台は何回滑って
もあきないね。

ソメイヨシノ、サトザクラなど約650本のさくらと
アジサイなど約1,300株のあじさいなどが植えられています。



- 博物館
- 公衆電話
- トイレ
- 階段
- 桜
- あじさい

--- 夜間閉鎖区域
開放時間 AM9:00~PM4:00



噴水



都電
昭和53年まで荒川線を走っていました



D51 (デゴイチ)
昭和47年まで羽越本線を走っていました



“北とびあ”から見た飛鳥山公園

飛鳥山公園には、現在、
ガクアジサイ、セイヨウ

さくら

空気が桜色に染まる
ほつぺたも
ピンク色になりそう

江戸の昔から有名な飛鳥山の桜。満開は例年四月上旬です。飛鳥山の碑」と桜の組み合わせは、歴史的なおもむぎ。昼間の散歩は、古木の多い旧渋沢邸側の桜がおススメです。四月末のほんの短い間、桜と競うかのようにツツジが咲き始めます。その共演は、花の精が舞うような美しさです。



ガクアジサイ

あじさい

雨の日が楽しくなる
紫陽花

飛鳥山公園のJR線側は六月になるとあじさいが道を彩ります。ここは飛鳥の小径といい、上中里駅まで続いています。この花をこよなく愛したシーボルトは、あじさいに自分の妻「お滝さん」（本名楠本滝）の名をとって「オタクサ」と名づけたそうです。



セイヨウアジサイ



飛鳥の小径

飛鳥山の碑

「飛鳥山の碑」は、飛鳥山の由来を伝える貴重な碑で、都旧跡にも指定されています。この碑は、元文二年（一七三七年）に、王子権現（現在の王子神社）の管理者、金輪寺の住職が建てたものです。文と書は、幕府おかかえの儒学者た、成島道筑（鳴鳳齋）、碑文上部の篆書「漢字より以前に使われていた古い書体」。飛鳥山碑は、山田宗純という有名な医者が書いたものです。碑に使われている石は、江戸城吹上庭園の滝見亭にあった紀州産の曹石です。碑には、飛鳥山の地名の由来や、八代將軍徳川吉宗が飛鳥山を王子権現に寄付したこと、さらに吉宗が桜を植えるなどとして、この地を整備したことなどが書かれています。ところが当時の漢学者が知恵をしぼって書いた名文なので、江戸のほとんどの人にはチンプン、カンブン。まったく分かりませんでした。



読めないこととで有名になった「飛鳥山の碑」は、川柳にも取り上げられ、「この花を折るなだらうと石碑みる」などと歌われています。

櫻賦の碑

明治十四年に建てられたこの碑は、佐久間象山（一八一〜一八六四）の書いた「櫻賦」を碑にしたものです。象山は、松代藩（今の長野県）生まれ、幕末期の儒学、兵学、洋学者で、勝海舟、吉田松陰らの先生でした。「櫻賦」は、安政元年（一八五四年）、門人の松陰が幕府の法にふれたため、松代に幽閉された象山が、国のゆく末をなげき、その気持を国の花、桜に託して書いた文です。その後象山は、開国論を唱えたため、元治元年（一八六四年）、京都で攘夷派に暗殺されました。勝海舟らは、象山の志を桜の花と共に後世の人びとに伝えようと、この桜の名所、飛鳥山に遺品を埋め、石碑を建てました。



船津翁の碑

「船津翁の碑」は明治三十二年に建てられたもので、文は品川弥三郎、書は小野鷲堂、篆額は小松宮彰仁親王の手にするものである。船津翁はいわゆる近世三老農（農業指導者）の一人で、上野国（今の群馬県）に生まれ、明治十年大久保利通に招かれて駒場農学校農場監督となり、のち、試験場技師となり、実験と学理によって農業の発達に努めた。静岡県石垣いちこの栽培法は彼の研究が最もよくつかわれているものである。



三つの博物館と 渋沢庭園

北区をもっともっと知ってほしい！北区が育んできた文化的魅力を
この飛鳥山公園の文化ゾーンで紹介します。

北区飛鳥山博物館

北区の魅力・不思議を発見！北区の自然や歴史を「大地・水・人」のテーマで構成した総合博物館です。

渋沢史料館

わが国の近代産業・経済界の指導者「渋沢栄一」に関する歴史資料を展示した博物館です。

紙の博物館

王子は、日本で初めて本格的な洋紙工場が建設された由緒ある地です。「紙」専門の産業・歴史博物館として世界的にも知られています。

渋沢庭園

この庭園の中には、大正期の優れた建築物として、国の重要文化財にも指定されている「晩香廬」と「青淵文庫」があります。

錦絵の中の飛鳥山

古くから桜の名所として名高
い飛鳥山は多くの錦絵の舞台
として描かれています。当時の
お花見のうきうきとした気
分や、飛鳥山の春の息吹が錦
絵からうかがえます。

「東京名所四十八景飛鳥や満」
并露一景画

子どもたちが遊んでいる遊びは「かわらけ投げ」といい、素焼きの皿状の土器や粘土を遠くに投げることを競いました。この遊びは明治時代まで続いたそうです。



「飛鳥山」淡斎英泉画

背後に見える飛鳥山からは吉宗が桜だけではなく、松もたくさん植えたことがうかがえます。当時の江戸っ子たちは、絵の中の子どもが手にしている天狗の仮面などで仮装を楽しんだことでしょう。



花といえは桜、桜といえは飛鳥山。
この季節、ほのかに甘い桜風に誘われるように、
どこからともなく人びとが集まります。

飛鳥の地名は、かつてここに飛鳥明神が祭られていたためだと言われています。
その飛鳥明神は、徳川家光が寛永十一年に王子権現を建て直す直前にその境内に移し、末社としたので、地名だけが残ることになりました。
飛鳥山が桜の名所となったのは、八代将軍徳川吉宗がこの地に桜を植えてからです。これまでは、大松林の飛鳥と言われ、『江戸名所図会』にも描かれています。

「飛鳥山の松は樹齢も相当なものと思われ、亀の甲羅のような幹をもつ老松が、太い根を四方にむき出していました」と言い伝えられています。

江戸初期の頃から、飛鳥山は、旗本、野間家（鷹匠の役だったといわれる）の所領でした。

吉宗は、王子権現が出身地の紀州熊野の神社を勧請した神社というのに興味を持ち、その末社である飛鳥明神のあつた飛鳥山を上知（かわりの

土地を与えて取り上げること）させ、王子権現に寄付しました。
享保五年九月、吉宗はこの地に桜一二七〇本を植え、土農工商を問わず広く江戸の人びとに開放しました。時の町奉行、大岡越前が音無川の川岸に水茶屋を建てることを許可した事も手伝って、飛鳥山は一躍桜の名所となりました。

また、上野と違って乱痴気騒ぎもお構いなしだったため、仮装や土器投げなどが行われ、大変賑わったことでした。



安藤広重筆
『江戸自慢』（かわらけ投げ）

▶ 山上から下の田んぼをめがけて土器を投げ、その距離を競う遊び。明治時代まで続いていた。